

INFORMATION

プラネタリウム一般番組

「おくのほそ道」 星空の旅

松尾芭蕉の「奥の細道」の旅をたどりながら、彼や江戸時代の人々が見た星空を紹介します。今夜の星空の生解説もあります。

4月15日(土)→7月9日(日)

平日	18:00
土曜日	11:30* 13:30 17:30
日祝日	11:30 15:30

*第2・第4土曜日は子ども番組「キッズ・アワー」となります。

星空ライブトーク

今夜見える星や星座、最新の天文ニュースやトピックスなどを当館の天文スタッフが生解説でわかりやすく紹介します。解説の内容は毎月かわります。

土曜日	15:30
日曜日	13:30

MUSIC PLANET ミュージック・プラネット

土曜の夜だけの特別プログラム。最新鋭プラネタリウムによる満天の星空と心地よいサウンド、そして宇宙の話題が繰りなすファンタジックなひとときをお楽しみください。

土曜日	19:00
	4月15・22日
	5月6・20・27日
	6月3・17・24日
	7月1・15・22・29日

■料金 (入館料を含みます)

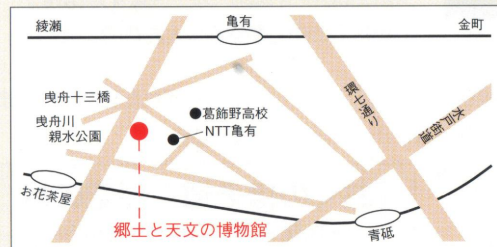
大人400円/小・中学生150円/幼児50円
第2・4土曜日は小・中学生以下無料

■休館日・休演日

月曜日 (祝日は開館)/第2・4火曜日/年末年始
7月12日(水)~14日(金) (番組入替のため)

■上映15分前までにご来館ください。

交通のごあんない



- 京成線 [お花茶屋] から8分
- JR常磐線 [亀有] から25分
- 京成バス (有57 亀有-奥戸車庫) [共栄学園] 下車徒歩5分
- 駐車場に限りがございます。電車・バスをご利用ください。

インターネット・ホームページ <http://www.obs.misato.wakayama.jp/~katusika/index-j.html>

葛飾区



葛飾区郷土と天文の博物館

〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1
TEL 03(3838)1101

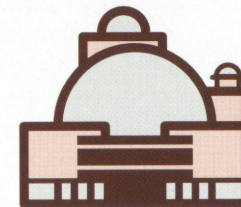


PLANETARIUM

「おくのほそ道」 星空の旅

～松尾芭蕉の仰いだ天空～

Vol.36 2000・春



KATSUSHIKA CITY MUSEUM

春を告げるアルクトウルスの輝き。



■天をかつぐ巨人？

春の夜空を見上げてください。空の高いところに明るく、そしてオレンジ色に輝いている星が見つかったら、それはきっと1等星のアルクトウルス。このまわりの星たちをネクタイのような形に結ぶと、『うしかい座』のできあがりです。

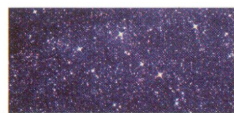
神話では、ギリシャの神様同士の戦いに負けて永遠に天をかつぐことになってしまった巨人・アトラスの姿だと言われています。ただ、星座の絵では、天をかついでいる姿ではなく、二匹の犬を連れている男の人として描かれています。この犬は、『りょうけん座』という別の星座。この牛飼いは二匹の犬とともに、隣にいる大熊（おおくま座）が牛をおそわないよう見張りをしているのだそうです。

■アルクトウルス、日本では…

さて、アルクトウルスは春から夏にかけての代表的な星。寒さがゆるみ始めたところに東の空に現れ、梅雨の晴れ間に空高く輝き、夏の終りとともに西の空へと傾いていく。私たちに季節の移り変わりを感じさせてくれます。

そんなアルクトウルスに、昔の日本人はすてきな名前をつけていました。たとえば麦星。初夏、地上の麦の穂が黄金色に色づくころ、空高く、黄金色の麦星も光っている。季節感のある名前ですね。それからすぐ南にある青白い一等星・スピカと組み合わせて、夫婦星。仲のよい星のカップルに見えたのでしよう。

夜空の星を見上げ、その名前の由来を味わう時、私たちは昔の人の星空への思いに触れることができるのです。



松尾芭蕉が見上げた星空

江戸時代、元禄の世を旅した松尾芭蕉。『奥の細道』の旅先から、彼はどんな星空を見たのでしょうか。

『奥の細道』の旅。それは芭蕉が元禄2年（1689年）の春から秋にかけて歩いた六百里（約2400キロ）もの大旅行でした。

江戸深川の住まいをはなれ、千住を出発して春日部、日光、仙台などを通り松島に至りました。「松島の月まず心にかかりて」と本のはじめにあるとおり、松島の月を見ることが旅の目的のひとつだったのです。

芭蕉はこの浜を見たときの思いを「美人の顔（かんばせ）」に似ていると表現しました。

芭蕉は夜空を見上げ、月が海に映って美しく見えたと記しています。



松尾芭蕉が訪れた松島（写真提供：宮城県）



夏の天の川

「奥の細道」の旅の続き、芭蕉は出羽三山を超えて日本海側に出ます。芭蕉が松島と対比させて絶賛したこの旅最北の地、象瀧（ささかた）を過ぎると、出雲崎にやってきました。ここでよまれた俳句は有名です。

荒海や佐渡によこたふ天の河

このとき実際には佐渡島さどがしまの上空に横たわる天の川は見られなかったともいわれます。芭蕉は心の中の星空をよんだのでしようか。



葛飾に伝わる七夕祭り（七夕馬）

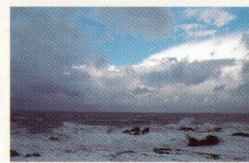
江戸時代には庶民のあいだに天文ブームがおとずれた時期がありました。とくに七夕祭りはさかんに行なわれました。

「星合い」と呼んで織姫星と彦星が一年に一度だけ天の川をわたって会うという七夕のお祭りを楽しみました。今に伝わる七夕祭りはこの頃にはじまったのです。

『おくのほそ道』 星空の旅

～松尾芭蕉の仰いだ天空～

■ストーリー
現代のある女性が、芭蕉の見た時代の星空をめぐる



▲日本海（写真提供：本間摩氏）